四十二國人物圖說

四十二國人物圖說

亞費利加　加拂里　爲匿亞

比里太尼亜　莫斯哥未亜　工答里亜

太泥亜　翁加里亜　波羅尼亜

意太里亜　亦月爾瑪尼亜　拂郎察

阿蘭陀　諳厄利亜　撒兒木

阿勤戀　加拿林　亜凡的革

伯剌西爾　小人　長人

總計四十二國

四十二國人物圖説

崎陽 西川淵梅軒求林志

渾地五大洲

亞細亜洲　唐土天竺韃靼等屬ス此大洲ニ

利未亜洲　自天竺西ノ方至ル南方之界ニ

歐羅巴洲　在リ於天竺之西北ニ一界也

亞黒利加 南洲 北洲　在於日本東南之大界 或分南北ノ爲ニ両州ト

墨瓦臘尼加　自赤道至ル南極下ニ一ノ大界也

以上

大明（タイミン）

西安府の図也 終南山イスイリサン、コウモンニホ、名山旧跡多し 文王武王の旧跡 旧廟皆有りし 日本より凡八百里

去る事雍も ●河南省 城下を開封と云ふ 我国の魏の都也 日本より五百里 余也 古は伏羲神農の

都も此也 ●湖広省 城下を武昌府と云ふ 春秋楚の国也 三国の時は呉都也 日本より六百里 ●江西省

城下を南昌府と云ふ 戦国楚の地也 日本より凡五百里 南京へ十日路也 古の豫章 今は潯陽

饒州にも名高き閩茂叙陶湖 明の古跡多し ●浙江省 城下を杭州府と云ふ 春秋の時 凡越の国也 南京より

ありしと云也 寺院多く 径山寺も此所にあり 日本より海上三百里余 方角南京の東 陸路二千五百里余也 日本へ

日本より九州より 此所へ津湊多く 故に日本へ往来多き所にて ●寧波府 唐音ニンホウ 日本より海上三百里也

唐土中一の湊也 昔より日本へ往来の通路 順風を待て船多く集る 古也 故に渡唐の船皆此寧波府に下りしと云ふ也

昔より栄たる所也 明州と云 寧波にあり 宝殿六百軒と云ふ ●普陀山 寧波の沖也 補陀落山と云 観音の霊地

と云ふ 寺多く出家ども日本の僧も参詣する人多き所也 日本より百里余 凡日本渡海

の舟を福建より渡海の時也 ●福建省 城下を福州府と云ふ 古の南越也 国號を福建と云ふ △

附 ▲雷州と云ふ所は雷の落る所也 雷の形は豚に似たり 頭の毛の如し 高さ二三尺也 大なる十二三 地を穿る也

斗の如くなる事多しと云ふ

△海上広き事也 日本より海上を合せて凡三百里也 城下を南京の陸路は三十日程也 方角唐土の東也 八

大清（タイセイ）

大清(タイシン)ハ即今の唐土ノ號なり 元の本国韃靼より起り大明の世を
風俗を改め毎国ト二国の風を交へ 東京の風俗を交へし二京十三道より
二文字 経史書籍 華語の字を用ひ是を改めず

外国

朝鮮(テウセン) 琉球(リウキウ) 大寛(タイワン) 東京(トンキン) 交趾(コウチ) 右の国ハ唐土の文字を用ひ 中華の人に通ず
中華の文字を用ひる故通達国也

外夷

チヤニハン カホウチヤ タニ ロワコン シヤムロウ モウカ モウル ミヤカメラ(カラハア) シヤラ バンタン ヂヤガタラ
右の国ハ唐土通 横文字ノ国也

阿蘭人商賣ニ往来ノ国ニ二十五ヶ国其内 トンキン モウガ カラバア ミヤカウ此国ハ第一の国 船ハ二十艘より來れり
ケイラン サセニメラ スウクウ アラカン サイロン ハンタ コトスガル スニカウ カラアソ モハアヤ マニカナル マルバアル デイモウル
セイロン メルナカタ アンボン ボンテラ ムスカウヘヤ ハルシヤ マタカスソル カラホテホウスイ ホルセル ナ子イ トルケイン
トルケイン ララアレキ スカウニス スヘイテ テイスマルカ イウルイキ トイチテンメン

外ニ御禁制之国、亜媽港、呂宋、イスパニヤ、エゲレス

大清（タイセイ） 四川省 城下を成都府といふ古ノ蜀ノ地戦国の時秦国ノ内也 里数南京ヨリ八百里程なり

中華十八省也 日本にて唐と称するハ此十八省也 何れも唐人の言葉又とならずして中に数通用の言葉あり

唐人船菩薩と号して祭るハ船中一媽祖（ニヤウソウ）也 姥媽トモ號ス 本ト福建興化の女ノ大海へ身を投して神と成る

神異ハ霊現多し中にも海難の船を救護する天妃の号を賜はる又聖母と号ス観音の化身と云ふ

菩薩[illegible]同様ハ則姥媽神之廟同ハ則姥媽の和音也 又関帝菩薩ハ蜀の関羽なり

又大道公と云ふ神を敬ふ衣冠唐の儒者唐人の形像の如し 又観音を信ずる事多し 菩薩ハ真[illegible]

唐船津内に到れハ大妻ノ令鼓を鳴らす事ありて九通抱帆頭不破を揚ケ令鼓を鳴らす時も津中の到船を

して九通令鼓鳴らす事 出帆と着の礼法也 唐土の風俗之

唐船役者

夥長（ホイ ニヤウ） 海上ノ方角を主トル者之ハリの法を能知る日月星を見て天気を考へ地理をよく知る役之

舵工（タイ コン） 舵ノ役也 夥長ト心を合せ大風を凌し海を渡ス大事の役也

頭椗（タウ テン） 碇を主る役之 漆し肝要気持の役之

亜班（ア バン） 帆柱の役也 日々何度も帆柱に登りて菩音の役也

之国々多しといへとも此国之海辺去る事百四十四里對馬ハ四十八里西の方にありとなり

釜山浦に日本乃館及古より都府迄十日路有之北京国迄陸路有之誰出

西紀ニ至ル北境ハ兀良哈（ヲランカイ）ニ通す東ハ女直（ヂョク）兀良哈ハ東韃靼の属国之跡なり

四季ともに日本の國風に似たり

韃靼（ダツタン）

韃靼ハ本名韃(ダッ)而(シ)靼(タン)と云今ハ而ノ字を略す 是國
東西黒白の二種有テ屬類甚多シ 國界四十八道に
相分れたり大國也 古ハ胡國と云或ハ蒙古と云も皆ナ
此國の異號なり 西界ハ唐土なり 又交趾(コウヒツ)なり 北ハ冰海(ヒヨウカイ)に
至る大寒国也 晝夜の長短大ニ違ふ 地方ハ四千里 かしれの下
くらのしるし 富(フ)饒(子ウ)の国也と云へり 国人弓馬を好む 曽院の
風俗 北極地より出る事 四十二度より

四季に寄りて南北ハ短く東西ハ長し

朝鮮

朝鮮ハ古の三韓なして馬韓 辰韓 辨韓の地也中古新羅百濟

高麗と分り末代合ゆ朝鮮と號ス国ハ八道あり寒国なり

京畿(ケイキ)道(トウ)ハ北極地を出る事三十八度之釜(フ)山浦(すこボ)ハ三十五度之

土産

人参　薬種色々　木綿　紬　サムワキ　トロメン　毛セン

油布　油紙

兀良哈（ヲランカイ）

元良吟ハ朝鮮の北東ニ有リ寒国之良の字を艮とかくハ誤り 此国去
朝鮮ニ属しゝ之ヲ域曰女直国の属国にて其北極を出ル事凡四十度と
云へり

琉球

常に何となく何となく又女人も有りし人ゝ縦令人ゝ明して海親の顔なれ

古しへ昔異聞の説話寸万事し候て今迄世遍く記録ゝ記録ゝ有ものと為すし

之

東京

答加沙谷

答 加沙吉ハ唐土東南の海中の嶋也 阿蘭陀人此を臺灣と
號し 國姓爺 鄭氏の後 東寧と號し 嘗て此國の風俗甚卑しく 麋 鹿と
獵して產業とせり 農民ハ 稻麥 西瓜を作り事を產業とせり 米穀一年に二度收む
北極地を出る事 廿二三度也 日本より海上六百四十里ほと也

日本寛文の比 國姓爺 厦門より此國へ敗走し 阿蘭陀人を追拂ひ 國中を治め城郭を築し居住せり
其子錦舎も父の遺跡を繼 一國を治めり 明朝の臣と稱し自ら人主と稱す 其時は清朝へ降事はなかりし
其子秦舎か代 日本貞享元年に至り 清朝に降参し 國を逆すて 渡しける 其身ハ王号を削り 北京に
居住せり 今此國 清朝の手に屬して支配をなし

呂宋

呂宋ハ臺湾ヨリ南の方海中ニ有ル嶋也 熱ハ同シ 温帯線ニ地ナリ
古代那須の属島ニ成ル 彼の西より多ク渡レ 地民ハ風俗不揃 しくこと
日本ヨリ海上ハ八百里ほとあり 此国ハ手渡ヲ入ル今ハ南蛮人渡リ傾地と
申しけり

剌答蘭

刺答蘭ハ日本乃東南大海の中に有明国之熱大国ニ昔蛮眠諸西洋の世間
既に其中見へずといへ共未代絵写到来有りや解すへし

呱哇 シャワ

蘇門答剌（スモダラ）
ソモン

蘇門答剌ハ或ハさほたらとも云 啞哇國の北にあたりて海をへだて道と

大抵大国之人也風俗總して國ともに也地を領し主君ハ代々皆女官を

主とも成なりしもあるよし 偶金塊を得て所々ハ旅人ありて交易をするよし

南北の両所黒と見へ又は黒ん坊の東に 渤泥國より人物風俗相同しく常熱の地也之

故に剌に教ハ 啞哇 蘇門答剌 渤泥等ハ亞尾臘加国に属し日本より

海上二千四百里とよし

土産

猴 東東 羊のやうなる獣之 胡椒 金子 アニヌゴサ ラシ イオウ 鼈甲 丁字 沈香

暹羅
シヤムラウ

羅烏

莫臥爾（モゴル）

莫臥爾ハ回々ヲ以テ　莫臥爾と云ハ誤なりといへとも南天竺の内にて中一の大国なり

古道カリ中寳貨富饒の地之繁栄なれとも氣候ハ凡廣東の廣東等に同しとそし

日本ヨリ海上三千八百餘里北極地を出ること二十二度

此国の事ト名を存ス仍ル

百兒齊亞

四季の行つゆかし暖なる国之此国の人ハ髪色黄色にして、土産 砂糖 白黒 象牙 金子
オンユ香色々

○トルケイン 日本ヨリ海上二万千二百五十里 寒国之人物常に悉く小袖をまとい 土産 玉 毛織色々
、毛織物色々 、木綿織物色々 、金入織物色々

○フランカレキ 日本ヨリ一万二千八百十里 気候暖にして四季有り 人物前と同し 土産 酒色々 、金織物色々
、木綿織物色々 、小道具

○ズヘイテ 日本ヨリ一万二千二百八十里 行ともに前と同し 土産 船ノ板 同根 材木色々 、石火矢
、チヤン 、銅 、鉄 、此外 船の道具色々

○ノウルウイン 四季 人物 四季 土産 前同――テイスデルカの[illegible]也 土産八かまて 双帆たなり

○テイスデルカ 日本ヨリ一万二千二百里 人物四季ともに 土産 前同――

○トイキンランド国 日本ヨリ一万二千四千里 人物四季前と同し―― 土産 、毛織物 、木綿織物色々 、太服
、石数 、水晶 、水根 、鬱金（ウツコン） 酒色々 、薬種 、三蓋類の皮

亞爾默亞（アルメニヤ）

亞媽港

亞媽港 卧亞 波爾杜瓦爾 以上三国ハ皆邪法国のことく
人の風俗相同し 亞媽港ハ唐土南海の中にあり 卧亞ハ天竺の
南にあり 境にあり 波爾杜瓦爾ハ遥に西方 歐羅巴の国なり
日本より西にあたり 日本より海上九百餘里とも云

度爾格
トルコ

度爾格ハ天竺ヨリ西北にあたれる國にて四五千里ある人倫

富饒にして威をふるひ西之隣國をも亡し、ため不孫にして

とのことなり

馬加欕爾（バカザル）

馬加撒爾ハ呂宋の南にあたれる島國にして大熱國なり人也
賤し南北の両極星を見る事 三蘇門答剌國にあるかごとし
日本より海上三千三百餘里なり

、土産

、金 、象 、白檀 、[illegible]

槃朶

亞費利加（アビリカ）

亜費利加ハ利未亜の内にて大国なり暑の所にて之一ッ也寒暑ハ日本の
夏の気少し菜麦肥饒ならず其地高饒にして五穀多生し無く下なり
百穀生すといへとも暑気の所なり

加嘝里（カブリ）

加林巴ハ利未亜の内にて大龍太古の大国なり風俗鄙しく下賤ハ西人に売られ剛強にして死と苦しむ事を知らず
至愚にして他人の奴僕となる又ハ能く主人に忠をつくす此所に欧羅巴の紅毛人是を求めて奴僕と成す此国の
下図ハ莫臥爾末太波亜にて日本より渡来る人ハ此胴の本と見へたり

爲匿亞（ギ子イヤ）
爲匿亞ハ
利未亞の内大國の熱國也

比里太尼亜

比里太尼亜ハ利未亜の内にして欧羅巴よりハ南の方地中海を隔てゝ西の方にあり大国にして[illegible]也と云

莫斯哥未亜
ムスコウビイヤ

工答里亞（ゴンタウリヤ）

工答里亜ハ莫斯哥未亜ト云フ国ノ風俗又同シ此大国ニ無キナリ

石火矢ハ此地ニ莫剌哥未亜ヨリ備ヘテ在之此地ノ馬ハ皆驢駝ナリ

大泥亞

翁(ヲニ)加(カ)里(リ)亞(ヤ)

菊 加賀盃ハうん如意も支ふ此国破召巴の用と志ち面

見れしくらい豊饒月〻 牛羊 洋集 繋 豬ゟ生上聖同なり

波羅尼亞

意太里亞（イタリヤ）

齊爾瑪尼亞

齊爾瑪尼亜ハ阿蘭陀國ニ並テ西ニアル寒冷の大國なり
人の風俗阿蘭陀ニ相類ス

拂郎察
フランス

拂郎察ハ阿蘭國近ミ武勇軍法ニ長シテ遍ク名アリ依テ隣國ト敵スル者無シ
欧羅巴ニテヨイテノ大国ニテ富饒ノ國也然レトモ也此國ノ北極出地ハ五十度
日本ヨリ海上一万千三百里守護多ク然レトモ無シ國所ヨリ人大人物ハ綺シ

土産

大鳥　○犀　○虎　○野牛　○鹿　○牛　○猪ブタ　此外多獣多シ

阿蘭陀

諳厄利亜（イぎりや）
エンゲレス

諳厄利亜ハ阿蘭國ノ海中の島なり其言語風俗阿蘭陀ニ
似タリ尤種又異なり欧羅巴ニ屬ス
日本ヨリ海上一万二千七百里阿蘭陀の西ニ有リ諸蛮なり人物阿蘭陀ノ如シ此貴ハ
平生日本ニ入津せしか商賣利なきよしにて来る事遅く而来ならす貿文の民
此国の船一艘昔希に来りし事ありし常ニ日本へ渡海商賣を願ひしに免許なく
甚私阿蘭陀船ニかくし留る——

撒兒木（ザルモ）

撒児木ハ陸よりおよそ六千里ほど
西天竺の北の方にありて寒気つよき国なり
国人寒さにしのぐ為に毛皮を着す
水少なり

阿勤戀

伯勒悉ハ南亜米利加の内大国にして其人蔵富と称せり此国に世界第一の大河あり廣さ二千里程の数十里に流れ其勢甚しく里中より東方に流れ来河の名を唱て
勘惣といふ

加拿林（カナリン）

加拿林ハ亜墨利加の内南方の大国なり 亜墨利加ゟ行程三千五百里 暖国なり 裸ニ而風俗あしゝ
和蘭迄二千里

亞瓦的革
亞瓦的革　馬尾的革ともいふ

伯剌西爾（ハラジイル）

伯刺西爾（ハウジイル）ハ南亜墨利加の東きにある大熱国なり人倫の風俗いやしく
所習ハ人を殺し炙て喰ふといへり今の代ハ諸国の人往来し交易をなし
まかふこと遠くにいたりし人倫の風俗知りて人を喰ふ事なかりしと云へり
此国ハ人の寿命長くして疾病なし百歳の人多し疾病ある者此国に来れバ治す
病気治してより此国の地を出れバ其地気に感じ元のごとく病気発する人多しと謂る人也
男女共にハ裸躰（らじつ）にして女人ハ髪を乱し髪を垂て国に来るもの其の姿をならべし所に於て
銀山の名あるものし事をなし大名大獣有し此国の気ハ流るゝ時百人とも
楠の木多く繁り余に能く取百ハ一人もとりもと楠あるへし又此国の南に銀河有事
を流一ある事ありといへり

小人（コビト）

小人國は波智亜（ボチヤ）といふ所あり欧羅巴（ヨウロッパ）の中の國を北の方氷海に近し此所は寒気甚
とす本邦の尺にて十八寸の尺にして其人の長一尺二寸ばかり猛獣も害をなす人
勝さとなし唐土に矮人といふ是なり

長人

長人ハ智加と云国なり南亞墨利加の内にあり此地にて第一の巴太遠と云国に

人同長大なり凡長日本の一丈少しと云ふなり日本の器にて是を風俗も

男強くして弓を射る長丈の長サ六七尺と云

此国とチイカ国と共ハタウンナニと云チイカ国の属国なり皆日本の東南にあたり海上七千八百里ほど

一万里行くと云男女とも西の方にて彩色と風俗とも阿蘭陀東の方大海を通りし阿蘭陀の一丈三尺余

右四十二圖の人物畫圖ハ西洋蠻人紅毛等の交易往来の

諸国人物ハ其彼国の畫工の圖せしを寫して長崎畫所ニ畫保しと

世ニ弘メたりしを今蠻人物外なる又外夷の圖を寫しせしハ蠻人

阿蘭人ハ往来あらしかいまた見さる所もあらハさんとあるを

書より古犯を除く去りしゆへ四十圖を以て罷ル後人追加つて四十

二圖となれりて古れを名付くれよの前き圖考ニ長崎の古老の

傳説をしるし撰述寫すよの右察

寛政元己酉年林鐘上浣寫之

服部宗藏